

# 宝蔵寺塔礎石



## 川之江町井地

井地の国道11号線から南側に少し入ったところ、地元では「お庵」と呼ばれているところの、入り口にある。手洗い石のようにになっている巨石が宝蔵寺の塔礎石である。

お庵から南に500mほどのところ、現在の丸住製紙の工場のあたりに、かつては「宝蔵寺」というお寺があり、その寺の塔の心礎石であったと考えられている。

「川之江市史 社寺編」には、明治15年にここに運ばれてきたと記されている。

塔礎石は長さ170cm、幅150cm、厚さ65cmほどで、中央に穴が彫られている。奈良時代か平安時代初期に作られたものと考えられる。

市指定文化財となっている。